

* とりなしの祈りの大切さ。自分自身のために祈るだけでなく、人のために、教会のために、社会のために祈るとりなしの祈りの大切さを再認識し、祈りにおいても成長していきたい。「あなたがたすべてのために祈るごとに、いつも喜びをもって祈り、」(1:4) パウロはピリピの教会の人たちを愛し、慕い、いつも心に覚えて祈っていた。どうしてか。

* 「あなたがたが、最初の日から今日まで、福音を広めることにあずかってきたことを感謝しています。」(1:5) パウロは最初のピリピでの滞在中に福音を伝えたために投獄され、困難に会った。ピリピの人たちはそれを共有した。しかし、パウロがピリピを去ってからも、パウロたちのために一生懸命祈り、また、ささげものをして生活をも支えて来た。私たちも、お互いどんなに遠く離れていても、祈りで支え、励ますことができるのである。作家の三浦綾子さんは言った。「友人とは何か。わたしの場合、お互いに何を祈ってほしいのか、わかっている間柄の人たちだと思っている。お互いの祈りの課題、それは真のこころの底を見せることであり、弱さを見せることだと思う。(中略) 毎日のように顔を合わせていても、お互いに何を祈ってほしいのかわからず何の祈りをし合わないのは、友人だとは思えない。」(「生きること思うこと」より)

* パウロのピリピの人たちに対する具体的な祈りの内容は、ふたつあった。

- ①「真の知識」(人からではない神からの知識)と「あらゆる識別力」(生活上の判断力)を増すことによって彼らの「愛」がいよいよ豊かになるように。
- ②終わりの日に主イエスの前に出たとき、「義の実」に満たされて、神の御栄えと誉れを現すことができるように。

* 「喜びを持って祈る」ことができるのは、お互いに祈り祈られ、支え支えられている関係があるからである。そうすれば祈ることそのものも喜びになる。